

医心 伝心

医師会の組織強化とは

県医副会長 泉 良平

6月の日本医師会代議員会において横倉会長が日本医師会会長に再選され、新執行部が誕生した。横倉会長は、所信表明の中で「組織を強くする」「地域医療を支える」「将来の医療を考える」の3つの方針を掲げ、日本医師会をあるべき姿に近づけることを目標とするとした。

私は代議員会代表質問で、日本医師会に勤務医部会を設立することで勤務医の意見が日本医師会に伝えられることになり、日本医師会の医療政策に勤務医の意見が反映されることによって、勤務医の日本医師会への積極的な参加が得られ、このことが日本医師会の組織強化につながると提案した。しかし、舌足らずな質問であったためなのか、答弁は私にとっては決して満足できるものではなかった。

医師会組織強化に妙案はなく、地域医師会での地道な活動こそが肝要である。日本医師会執行部は、地域医師会での日医未入会会員の日本医師会への入会を促進させるとの方針を示した。いかにして、日本医師会入会へと動機づけることができるのか。日本医師会の実態を知らせ、入会のメリットを伝え、具体的に医師会活動への参加を求め、その機会をつくる、等々具体的に汗をかく作業が必要となる。

富山市医師会内に富山大学医師会（仮称）が設立されることによって、富山県医師会活動が新たな局面に入る。若い医師に医師会の意義を伝え、

医師会活動を知らせることによって組織化はすすむ。医師会は、若い医師が、誇りを持って健康に働くことができるよう勤務環境を整備し、また、職業倫理・professional autonomyを含めて医師としての矜持を教育し、誇りある医師として働き続けられるよう援助しなければならない。

さて、馬瀬会長の提案で富山県医学会が勤務医部会とともに新たな発展をとげるよう準備が進められている。県医師会が主催する医学会でしか行えない地域医療や医療連携の問題などを富山県医学会で真摯に議論することができれば、若い医師や地域住民、行政、コメディカルに医師会の姿を見せることができるのではないかと。

私は、日本医学会総会2015関西において、日本医師会の協力により勤務医セッションを担当することになった。このセッションでは、地域医療にかかわる勤務医の奮闘を表現し、また医療連携に必要な課題を提案する。勤務医なくして、日本の医療は成り立ちえない。日常の多忙な診療にしか向けられない勤務医の意識を社会に向けさせることができれば、そして彼らに、医師会が行政のカウンターパートナーとして大いなる影響力をもつことを知らずことができれば、若い医師たちの目は医師会へ開かれることになる。医師会の組織強化とは、まさに未来の医療を担う若い医師たちの、そして勤務医の力を医師会に結集することではないだろうか。